

科目名	言語と社会1～2
授業の目標・ねらい	社会言語学の基礎を理解してもらうことを目的とします。日本における社会言語学史、対人コミュニケーション、多文化社会における言語事象、ディアスポラ社会の言語事情など、社会言語学をめぐるさまざまなテーマから、言葉の規則性に社会の仕組みがどのように関わっているのかを受講生と一緒に考えます。
授業内容・授業方法	【第1回】社会言語学とは 社会言語学的な考え方、社会言語学史、日本の社会言語学と海外の社会言語学 【第2回】対人コミュニケーション ポライトネス、待遇表現、精密コードと制限コード、ステレオタイプ 【第3回】多文化社会における言語事象 ダイグロシア、ドメイン、リンガフランカ、同化 【第4回】ディアスポラ社会における日本語 アメリカ、ハワイ、ブラジル、台湾、パラオ、サハリン
予習・復習	指定する文献を読んでください
使用テキスト	プリントを配付します。
参考書等	真田信治・ダニエル＝ロング・朝日祥之・簡月真(編)『改定版社会言語学図集』(秋山書店)
講師	朝日祥之
所属	
研究分野	社会言語学、変異理論、方言接触
講師紹介	移住によって形成されたコミュニティで生まれる接触方言の成立過程を、国内外の日本人コミュニティをフィールドとし、社会言語学の見地から調査研究を行っています。これまで西神ニュータウン、サハリン、北海道で収集した調査データをもとに、言語変容の過程を明らかにするための考察を行ってきました。